

VALINO TIRESの“いま”が分かるフリーマガジン



発行: VALINO TIRES  
<https://valino.jp/>

# VALINO ATLUS PRESS



【完全保存版】

ドリフトマスタース ヨーロッパチャンピオンシップ 2023

# 中村直樹 | 激闘録





中村選手ならではの迫力満点のドリフトで一気に観衆を虜に。彼の名はすでに世界に広まっており、多くの人にサインを求められた。

日本人として初めてドリフトマスターズにフル参戦する天才・中村直樹選手。しかし、初戦の 아일랜드大会はほろ苦い結果となった。マシントラブルである。

「予選前の練習走行一本目で、エンジンが壊れてしまったんです。その後、どうにか修理して走れる状態にはしたものの、予選は2本あるんですが、この状態では一本しか走れないだろうなあって。もう練習走行すらできず、ぶっつけ本番のこの一本で、絶対に予選を通過するんだっていう強い気持ちで挑みました。」  
そして、予選一本目。案の定、エンジンが悲鳴を上げる。「ちょうどコースの半分の所でパワ

ーが落ちてしまいました。後半の長いゾーンが見せ場なんですけど、その時点ではクルマに力が残っておらず、キチンと外に持っていくことはできませんでした。」  
とはいえ、思惑通り、たった一本の走りでトップ32に入り、予選を無事通過する。  
彼が思い描いたプランはこうだった。とにかく予選を通過させ、一晩でエンジンを載せ換え、そして、翌日の決勝で暴れる。しかし、予選通過まではプラン通りだったが、載せ換えるエンジンが手に入らず、結局、決勝はスタートラインに立つことすらできなかった。

# RD.1 | IRELAND

2023.5/6-7  
MONDELLO PARK

## What is DMEC?

世界中のファンを魅了するドリフトの祭典  
ドリフトマスターズ ヨーロッパチャンピオンシップとは、名実共にドリフトの世界で最も権威のある大会である。20の国から集まった50名のトップドライバーたちが、ヨーロッパ各地を転戦し、全6戦で競い合う。



ぶっつけ本番で予選通過するも悲運なトラブルに

# 日本人初フル参戦

言葉も通じず、知り合いも少ないアイルランドでは、本当に悔しいですが無理でした。  
初戦の結果はトップ32。決してなめていたわけではないが、思い描いていた理想と現実とは大きく違っていた。しかし、タタでは転ばない。今話を伺って、中村直樹選手が凄いのには気持ちの切り替えの早さだと気付かされた。走れない分の時間をライバルたちの研究に当てる。  
「向こうの選手は変なミスが少なく、確実にゾーンに入れる。さすが世界各国から集められた50人の精鋭だなと思いましたね。」  
日本を代表するドライバー。D1 GPチャンピオンの肩書きも背負っている。そんな中村選手を現地のファンはどんな風に迎え入れたのだろうか。そこも大いに気になる。  
「ファンも選手も主催者も、みんなが僕にとっても親切で、リスベクトしてくれたのが嬉しかったですね。僕は全く英語を話せないの、これは知り合いから聞いた話なんですけど、D1GPはもちろんですが、どうやら、今から20年前にやっていた名阪でのドリフトで僕が存在を知った方が多いようです。まさにドリフト創成期時代。ドリフトマスターズの選手たちの中には、その映像に影響を受けてドリフトを始めた方もいるようで、それもあって凄く親切にして頂きました。」  
つまり、若い選手にとって中村選手は子供の頃に憧れたスーパースターなわけだ。世界で知られる希少な存在。初戦は残念な結果に終わったものの、彼の存在感は一度たりとも揺るぐことはなかった。





向かって右が中村選手。笑顔でシャンパンファイト。やはり彼は表彰台がよく似合う。

「日本のドリフトとは比較にならないほどの煙なので、特に入れ替わる時は、相手の後ろにいる時間が長くなる、その煙のせいで相手ごとにいるか分からなくなる。だから、

スウェーデン大会のコース・ドライブセンターアリーナはヨーロッパ屈指の高速型コースとしても知られている。ゆえに風向きによっては、どんなに慣れているドライバーでも尋常ではないタイヤの自煙に悩まされる。サドンデスを制した中村選手は、次のセミアイナルで煙の渦に巻き込まれることに……。

人、スタイルだけを見る人って感じなんです。日本のD1GPの場合は機械での採点なので特性を把握していれば高得点を狙える。ドリフトマスターズは違って、審査員がその3つで評価する。良い・悪いがハッキリしていて、シビアだなんていう印象ですね。」

**ヴ**

アリノの支援を受けて新しいエンジン入手。そのお陰で第2戦のスウェーデン大会は、初戦とは打って変わり、万全の体制が整っていた。初日の予選は単走戦。結果は18位だったが、これは想定内。「初めて走るコースで、しかも、練習時間も少ない。だから、ドリフトマスターズというのは勝ち上がりながら、徐々にコースに慣れていくもんです」と中村直樹選手。

そして、翌日の決勝。遂にスタートラインに立った決勝は追走戦で行われる。その大事な決勝1回戦のエピソードは、ある意味、中村直樹選手らしい。

**RD.2 | SWEDEN**  
2023.6/9-10  
DRIVECENTER ARENA



天才・中村直樹、2戦目にしていきなりの表彰台

快挙! 3位表彰台

引いて入れる時はサッとやらないとダメなんです。」

分かっていなし、注意もしていた。しかし、天才・中村直樹選手にも間答無用に襲いかかる。

「セミアイナルは煙の渦に巻き込まれて、全然見えず、とりあえず返したら、あんな位置にいたって感じでした。」

その直後、あっ終わった……. . . . .と語っている、主催者に日本のD1GPには無い3位決定戦の存在を知らされる。

「そんなのがあるなんて全然知らなくて(笑)。一気にテンションが上がって、最後にいい追走を見せてやろう! って思いました。振り返ってみると、その時の走りが一番上手くいきましたね。」

祝・日本人初の3位表彰台。もちろん、目指すはシリーズチャンピオン。快進撃はまだまだ続く。

「正直、この段階の相手は大したことないだろうと(笑)。それでユーズドタイヤで、空気圧も落とさずに行っただけです。相手のミスで勝ち上がる事ができたんですけど、後になつてよくよく調べてみたら想像以上に実績のある選手で、危ない危ないって感じでしたよ(笑)」。

決勝2回戦をやり過ごし、続く決勝3回戦。ベスト8同士の戦いはサドンデスまでもつれ込んだ。

「とにかく、ドリフトマスターズの採点はシビア。ざっくり言うと、ライン、アングル、スタイルの3つで競うんですが、審査員は3名で、ラインだけを見る人、アングルだけを見



欧州屈指の高速コースと中村選手の相性は最高で、思い通りの走りができた。連日、ヴァリノのブースも大勢のファンたちで賑わっていた。





## RD.4 | LATVIA

2023.7/29-30  
BIKERNIEKI CIRCUIT



## RD.3 | FINLAND

2023.7/7-8  
POWER PARK

### 雨のラトビア大会。スリッピーな路面に苦戦。

**第**4戦の舞台はラトビア。バルト三国最大の都市として知られるリガの郊外に位置するビケルニエキサーキットで開催された。今回のコースの印象は、「最終コーナーはそうでもないんですが、そこに至るまでは高速型。決して簡単ではなく、癖がある。毎回のことなんですが、今回もほとんど練習ができません。予選が始まってしまっ。コースに慣れる時間がないというのもある、非常に難しかったです」と中村直樹選手。

予選、単走1本目。スコアは71.00。その時点での順位は20位。しかし、続く選手たちが次々と高スコアを出し、決勝進出圏外まで落ちる。そして、後がなくなった中での単走2本目。厳しいプレッシャーをはね除け、スコア79.00を叩き出し、30位で決勝進出を決めた。慣れないコースで、ほぼぶつつけ本番。にも関わらず、最低限の結果を残したのは、さすがのひと言に尽きる。

翌日の決勝。天候は雨。せっきゃくコースに慣れてきたというのに、路面コンディションは予選の時とは全くの別モノに。コース上は大きな水たまりができ、多くの選手たちがマシンコントロールに苦戦。スコア98.00という完璧なドリフトで予選1位だったピオトル選手も、スリッピーな路面に襲われ、決勝1回戦で姿を消す。この番狂わせからも、どれほど悪いコンディションで戦いが繰り広げられたのかが分かるだろう。そんな状況の中、中村選手は決勝1回戦を冷静に通過。しかし、ベスト8を賭けた決勝2回戦でバランスを崩し、敗退。「ツルツルしたラバーの上に乗ってしまっ。車体が一気にワープして、『あ、出る出る出る』って。必死になって抑えようとしたんですが、縁石を越えてしまいました……。その時の様子を悔しそうに中村選手は振り返る。それは不運としか言いようのない負け方だった。

決勝2回戦の走りを深掘りすると、「後追いでポイントを獲得していたので、先行は無難に走るだけでよかった。それだけに本当にもったいない負け方でした。敗因は路面、いや、路面を読み切れなかった自分のせいです」。年間6戦で競うドリフトマスターズ。シリーズチャンピオンになるためには、このラウンドで優勝するしかなかった。自ら高いハードルを課し、一発逆転を狙っての大勝負。それだけに、この敗戦が中村選手のメンタルに影響が出ないか、とても心配だった。「今回のリガ戦で学んだのはブレーキ。サイドブレーキが大きな減点対象になることが分かった。だから、やはり左足ブレーキを自分のモノにする必要がある。必ず、次の戦いに向けて左足ブレーキをマスターしてみせます」という前向きな言葉を聞いてホッとした。悩める天才・中村直樹。この試練が、彼をさらに強くすることだろう。

### 屈辱の試練。攻めの走りが大減点の対象に。

**結**果は予選落ち。1本目も2本目も中村直樹選手らしい攻めの走りだった。だから、見ている側からすると、次に繋がる敗戦のように思えたが、本人に話を聞くと、全くそうではないらしい。

彼の口から出てきた言葉は「屈辱」の2文字だった。競技の真相を要約すると、今回は壁に囲まれた低速コースで、多くの選手がタイヤを食わず、終始、無難な走りに徹していた。そんな中、中村選手だけは日本魂を見せつけるため、いつも通りのスピード重視で走る。「今回のような低速コースの場合、左足ブレーキで調整しないと壁ギリギリに沿って走ることはできない。しかし、自分は左足ブレーキがまだ完璧に使えない。それもあって、左足の代わりにサイドブレーキを使ったんですけど」。上手くスピードをコントロールできず、コースアウト。予選1本目は0点に終わり、得点をつけることができなかった。

2本目は約2時間後。その間に先ほどの走りを反省し、作戦を立てる。「よし！これで行こう」と決めた直後、会場が豪雨に見舞われ、練りに練った作戦は無駄に。「でも、今回は雨に備えて日本から手荷物で『ペルギア 08R JPN』を持参したんです。日本で行われた大会でウェットの時にJPNを使って凄く良かったから。だから、気持ちを切り替え、JPNで勝つことだけを考えました」。いざ2本目、予選通過ラインが高かったというのもあり、豪雨の中でも、中村選手は攻めて攻めて攻めた。

迎えた最終コーナー。「最後のコーナーはバンクしていて、アクセルを抜いたらゾーンに引掛かからないと思っ、踏み千切ったんです。壁に当たったけど、無理矢理そのまま持って行った。『よし、これで予選は行けたやろ！』って思っていたんですけど、順位が表示された時はひっくり返りそうになりました。なんで？って」。

中村選手は「ルールはルール。知らなかったのは勉強不足」と言いつつも、顔付きは険しい。「69点。原因はタイヤの接触。それで10点ぐらい減点された。マスターズのルールはボディが壁に当たるのはいいけど、タイヤが当たったら大減点らしく、そんな知らんし(笑)」。公式放送を見ていた人なら分かると思うが、あの時、何度も繰り返し、中村選手のマシンが映し出されていたのは、その微妙な判定のためだったわけだ。そして、冒頭の2文字を口にする。「屈辱、今回は屈辱を思い知らされました」。

何が何でも絶対に獲りたかった、彼の表情からそんな熱い思いが伝わって来た。「いい加減、日本と違うルールを覚えたいし、ヨーロッパのコースにも慣れてきた。もう、こんな悔しい経験はない。3戦やって、あと3戦。ここから折り返し。一発優勝すれば、たいが巻き返せる。残りのレースは日本魂で大暴れしますよ」。

決勝2回戦の先行での戦いは本当に残念だった。しかし、無難な走りではなく、常に全開なのが中村選手の持ち味だ。ゆえに悔いはない。



コンディションは万全で、走りも悪くなかった。しかし、マスターズのルールと噛み合わず、初の予選敗退という悔しさを味わうことに。



るといふ決断をしました」。

日本のスタイルではなく、向こうのスタイルに。ドリフトマスターズの上位選手たちは、長いゾーンを端から端まで、壁スレスレの深い所まで行く。その走りが高得点に繋がっているのは誰の目にも明らか。

「ただし、それをやる場合、日本的なトラクション重視のドリフトは不向き。だから、向こうの選手と同じようにタイヤをツルツルにして、タイヤの空気を2.2キロまでパンパンに入れた。今までに一度もそんなセッティングで走ったことはなかったけど、やるしかない。正直、一か八かの賭けでしたが、結果的に上手くいったってホッとしました」。

翌日の決勝は夜。真っ暗なコースを照明がほのかに照らす、そんな中で行われる。そして、各マシンのスタートに合わせて大きな炎が立ち登る。鉄の街、美しき廃墟ならではの



鉄の街・フェロポリスの象徴である人類史上最大の自走式掘削機がコースの目の前に。

フ エロポリス。通称・鉄の街。ここを訪れた多くの人たちが「まるで絵のように美しい廃墟だ」と評する。元々は20世紀に栄えた炭鉱で、スタジオブリの映画『ハウルの動く城』に出てきそうな人類史上最大の自走式掘削機は、解体されることなく、今もなお残されたままになっている。

ドリフトマスターズ第5戦はその鉄の街にコースを設営し、世界から集まった51人のドライバーたちによってバトルが繰り広げられた。

注目の中村直樹選手は初日の予選を18位で通過。3位入賞を果たした第2戦スウェーデン大会の時と同じ

# RD.5 | GERMANY

2023.8/17-19  
FERROPOLIS



セッティングを「欧州ドリフト仕様」に変更

## 一か八かの賭け



### Introducing popular players!

21/22シーズン連覇  
真のスーパースター

第5戦を制したのは、ヴァリノがサポートしているピオトル選手。今のマスターズの中心はピオトル選手だと言っても過言ではない。



迫力満点の演出に多くの人たちの目が奪われた。

「決勝に出てきたドライバーたちはとにかく上手くて、そして、勇敢でした。実際のコース上はライブ映像なんかで見えるよりも薄暗くて、本当に前が見えにくい。その上、半端じゃないほどタイヤの白煙に包まれる。そんな夜と白煙をモノともせず、ガンガン、相手のクルマに寄せていく。それこそ、一歩間違えたら廃車になるような本当にやばいコースで、それでもミスなく、やりきる。『一体、彼らはどんな練習をして、ドリフトの腕を鍛えているんだらう?』思わず、そんなことを考えたりました」。

中村選手の決勝の結果は8位。エンジンの不調が原因で思い通りのドリフトができず、現時点で最もシリーズチャンピオンに近いシヤナハン選手に、接戦の末、敗れた。

順位での予選通過というのもあり、縁起がいい。

しかし、実際にはそんなことを言っている場合ではないほどの窮地に立たされていたようだ。

予選1本目は78点。予選2本目は92点。その差は14点。1本目と2本目でこんなにも大きく点数が違うのは、「走り方」そのものを変えたからなのである。

「これまで自分は日本のスタイル、トラクションをかけて走るドリフトにこだわってきました。しかし、このコースではそれが通用しない。1本目を走った時点でそれが分かった。だから、予選2本目は走り方を変え





シリーズチャンピオンが決まる大舞台。そこに集まった観衆は6万人以上。これぞ世界一のドリフト大会。

ドリフトマスタースヨーロッパチャンピオンシップ2023。20カ国から集まった50名のトップドライバーが、欧州各地を巡り、全6戦で競い合う。名実共にドリフトの世界で最も権威のある大会である。

その最終戦が9月15・16日、ポーランドのワルシャワにあるPGE国立競技場で開幕。今シーズンは優勝争いもつれ合い、最終戦の段階で優勝候補が6人もいる状態。誰が勝つか、誰も分からないシナリオに、スタジアムに集まった6万人以上の観衆が一喜一憂した。日本人として初めてドリフトマスタースにフル参戦したチーム・ヴァ

リノの中村直樹選手。初日の予選は26位(86点)で通過し、翌日の決勝の舞台へと駒を進めた。「左足ブレーキを使うシーンで、少し回転数を落としてしまった。そのミスさえなければ90点台を狙えたかな。振り返ると、あのミスはちょっと悔しいですね。」

### ドリフトマスタース年間総合ランキング9位

# 溢れ出る悔しい想い

## RD.6 | POLAND 2023.9/15-16 WARSAW



壁と接触しても踏み続ける。中村選手は世界に「日本魂」を見せつけた。

「ドリフトマスタースは長いシーズンなので、同じ選手と当たるのはよくあることで、チルバ選手とはこれで3回目。一番最初の時は僕のトラクション重視の走りに対応できず、彼は負けた。その次は彼は空気圧を落として日本流のドリフトを真似てきたが、それでも負けた。そして、今回。どんな風に来るのかと思ったら、遅遅作戦(笑)。余裕でバチバチに合わせてやりました。」



日本のD1グランプリでも大活躍シリーズランキングは3位に!  
今シーズンの中村選手は「D1グランプリ」にも参戦。つまり、欧州と日本の2つの大会を同時進行で戦っていたわけであり、改めて考えると、この事実にも驚かされる。D1グランプリはニューマンシンのGR86で挑み、シリーズランキングは堂々の3位に輝いた。

「許せないのは2本目の時だ。後追いのチルバ選手は捨て身の攻撃に打って出た。壊されたマシン。その傍らにいる中村選手は、ニヤニヤしながら寄って来た彼を無視し、相手にしなかった。たぶん、状況的にいって、彼はそれを狙ったのだろう。「振り返り時、サイドブレーキを一発入れると速く走れるんです。自分はずっとそういう風にしてきた。ただし、ドリフトマスタースではそれが原因で接触した場合、ブレーキを踏んだ前のクルマの責任になる、というルールなんです。」





【完全保存版】

ドリフトマスタース ヨーロッパチャンピオンシップ 2023

# 中村直樹 | 激闘録

## RD.1 | IRELAND

2023.5/6-7  
MONDELLO PARK

### RESULT

単走ファイナル | 24位 / スコア73.00  
追走トーナメント | リタイヤ

## RD.2 | SWEDEN

2023.6/9-10  
DRIVECENTER ARENA

### RESULT

単走ファイナル | 18位 / スコア80.00  
追走トーナメント | 3位表彰台

## RD.3 | FINLAND

2023.7/7-8  
POWER PARK

### RESULT

単走ファイナル | 45位 / スコア69.00

## RD.4 | LATVIA

2023.7/29-30  
BIKERNIEKI CIRCUIT

### RESULT

単走ファイナル | 30位 / スコア79.00  
追走トーナメント | 16位

## RD.5 | GERMANY

2023.8/17-19  
FERROPOLIS

### RESULT

単走ファイナル | 18位 / スコア92.00  
追走トーナメント | 8位

## RD.6 | POLAND

2023.9/15-16  
WARSAW

### RESULT

単走ファイナル | 26位 / スコア86.00  
追走トーナメント | 14位

